

会計基準アドバイザー・フォーラム会議

概念フレームワーク

2015年3月

測定基礎の識別、記述及び分類

企業会計基準委員会

要 約

1. IASB スタッフの要請を受けて、ASBJ は、測定基礎の識別、記述及び区分に関する IASB の暫定決定に関する予備的見解を提供している。
2. 「概念フレームワーク」の目的を踏まえると、ASBJ は、測定の章は、IASB が一般目的財務報告の目的を満たすことになる負債及び資産の目的適合性のある測定基礎を選択することを支援するように設計されるべきと考えている。
3. したがって、ASBJ は、2 分類（すなわち、測定基礎を歴史的原価と現在価額に分類）は不十分と考えている。その代わりに、ASBJ は、「概念フレームワーク」が、以下に基づいて測定基礎を分類することを提案している。
 - (a) 測定におけるインプットを更新するかどうか
 - (b) 資産又は負債を測定する際に、市場参加者の仮定と企業固有の仮定のいずれによるか
4. ASBJ は、当該分類は、入口価値と出口価値との区分（ASBJ の考えではこれは不要である）に基づいて測定基礎を分類していないことを除いては、IASB の再審議の過程の中で IASB スタッフが試みた分類とおおむね整合的と考えている。
5. 測定におけるインプットを更新するかどうか、更新する場合、どのように行うかに関して、ASBJ は、測定基礎を以下に基づいて分類することを提案している。
 - (a) 完全に更新されたインプットに基づく測定値
 - (b) 部分的に更新されたインプットに基づく測定値
 - (c) 当初から固定されたインプットに基づく測定値
6. 上述の分類を踏まえ、ASBJ は、IASB が基準設定プロセスにおいて目的適合性のある測定基礎を決定する際に以下の事項を考慮するための取決めを設けることを提案している。
 - (a) 3 区分（すなわち、完全に更新されたインプットに基づく測定値、部分的に更新されたインプットに基づく測定値、当初から固定されたインプットに基づく測定値）のいずれかに分類される測定基礎を、企業の財政状態と財務業績の報告の目的の双方のための測定基礎として使用する理由
 - (b) 「部分的に更新されたインプットに基づく測定値」という区分に分類される測定

基礎を選択する場合には、インプットの一部のみを更新することが目的適合性があると考えられる理由

(c) 企業の財政状態の報告の観点と財務業績の報告の観点から異なる測定基礎を選択する場合、その理由

(d) 測定基礎は、市場参加者の仮定と企業固有の仮定のどちらに基づいたものか

7. また、ASBJ は、IASB が基準設定プロセスにおいて「現在市場測定値」（すなわち、公正価値を基礎とした測定。本ペーパーの第 41 項参照）を適切に選択するのを支援することになる原則を設けることを提案している。詳細については、「会計基準の設定における『企業の事業活動の性質』の役割」と題したペーパー（企業が行う事業活動の性質を踏まえ「現在市場測定値」を使用すべき状況を説明している。）を参照していただきたい。
8. 測定基礎の識別及び記述に関して、ASBJ は、さまざまな代替的アプローチがあると考えており、広範に記載するアプローチの利点と欠点（これには、異なる測定基礎の性質の理解を促進することの便益と「概念フレームワーク」が長々とした文書となることの帰結が含まれる）を認識している。上述の目的を満たすことを踏まえ、ASBJ は、「概念フレームワーク」は測定基礎に関する議論をハイレベルなものにすべきであり、詳細（各測定基礎の長所と短所を含む。）について論じるべきではないと提案している。